

ほのか診察室

HONOKA Consultation room



シリーズ 第73話

結核は「過去の病気」？



市民病院 呼吸器内科
代務医師
(浜松医科大学 第二内科)

まつうら
松浦 駿

監修

結

核を過去の病気だと思ってい
ませんか。

結核はかつての日本では「国民
病」「亡国病」と呼ばれるほどまん
延率が高く恐れられていました。そ
の後、医療や生活水準の向上により、

急速に低下していき、過去の病気と
いう認識が高くなってきました。し
かし、今でも1日に64人の新しい患
者が発生し、6人が命を落としてい
る国内最大級の感染症です。
結核の感染は空気感染、飛沫核感

染によって起こります。重症の結核患者の人が咳をすることで空気中に結核菌がまき散ります。空中に浮いている菌を周りの人が直接吸い込むことで感染します。しかし、感染したからといって必ず発病するものではありません。大部分は体の中の免疫によって菌の増殖を抑え込みます。体の抵抗力が弱く、菌の増殖を抑えきれなくなると結核を発病します。過去に感染した菌が抵抗力の低下をきっかけに暴れだすこともあります。日本の死因のトップとして「国民病」と恐れられた1950年代までに感染し、加齢とともに抵抗力が衰え、肺の中に潜んでいた菌により発病することもあります。そのため、現在の新登録結核患者の半数以上は70歳以上が占めています。

結核を発病した初期の症状は、咳、痰、発熱など風邪に似ています。症状が良くなったり、悪くなったりを繰り返す点が風邪と異なります。心当たりがあれば、すぐに医療機関に受診し、早期発見が感染の拡大を防ぎます。結核が不治の病であったことも、昔の話で、現在は複数の内服薬を6〜9カ月服用することで治すことができます。決められた薬をき

ちんと継続することが重要です。治療の途中で服用を止めてしまうと、再発の恐れがあり、さらに薬に耐性のある多剤耐性菌になる恐れもあります。また、抵抗力の弱い赤ちゃんは結核に感染すると重症になりやすく、生命の危険もあります。生後3〜6カ月の間にBCG接種を行います。BCG接種とは、結核菌の感染していない人に毒性を弱くした牛型結核菌を刺し、結核に対する免疫力をつけます。接種後、部位に小さな針痕が残りますが、残っていないからといって免疫がないということではありません。このように結核について正しい知識を持ち、注意をすればそれほど怖がる必要はありません。

厚生労働省では、9月24日〜30日を結核予防週間と定めて、結核に関する正しい知識の普及啓発を図っています。咳などにより感染してしまいう結核は患者さん本人だけの問題ではありません。この機会に結核について正しい知識を身に付け、咳や痰が2週間以上続いている方はマスクを付けることを心がけ、一度、医療機関へ受診することをおすすめします。